エクストリームスポーツ競技者の心理特性 ～スノーボード競技者への面接調査から～

Psychological characteristics of X-sports players

1K04B056-7

勝野 龍輝

指導教員

主査 作野誠一先生

副査 木村和彦先生

目的

エクストリームスポーツ、スノーボード競技は他のスポーツに比べて特殊であるにもかかわらず、それらの研究がほとんど行われていない。したがって、それらに焦点をあてた研究をすることは、エクストリームスポーツの新たな可能性を発見すると同時に、新たなスポーツの研究対象として確立する事につながると思われる。

また、スノーボード競技者の心理特性を把握することは、裏を返せば観戦者の観戦行動の一要因にもなると思われる。このことは、スノーボード市場、エクストリームスポーツ市場の発展にもつながるであろう。本研究では、スノーボード競技者の心理特性に着目し、なぜ刺激を求めて自ら危険なことを行おうとするのかという研究課題を設定し、スノーボード競技者の情報をもとにこの研究課題について論究を深めることを目的とする。

方法

本研究では心理学調査法を用いて、エクストリームスポーツのスノーボード競技者の心理特性を明らかにすることを目的とした。調査方法は、心理学における質的研究に用いられる半構造化インタビューを行い、本調査の調査対象についてはエクストリームスポーツの中のスノーボード、特にワンメイクジャンプあるいはハーフパイプ種目の競技者で、リスクテイカーとして度合いの高い20代前半の男子3名を対象とした。対象者はスノーボード競技者およびプロライダーとして資格を有する者、資格はないがプロと同じような活動を行っている者であり、主に「特異な経験の有無」「恐怖心と快感」「スノーボードの目的」に付随する質問を行った。収集した会話データの中で、記述する必要があると判断した対象者の経験などを挙げてゆき、質的データを収集した。

結果

3者の回答を個人別に分析した結果、質問項目に対する3者の回答にはあまり差異はみられなかった。環境は違うが、「特異な経験」、「恐怖心」「スノーボードの目的」「スノーボード観」などにおいて、似たよう

な体験や価値観を有していることが明らかにされた。

考察

3者の活動の目的は自己目的的傾向にあるという事が確認できた。つまり、ゲームに熱中するように楽しい経験に没入している状態にあるということである。インタビュー調査を行った3者とも、スノーボード自体の楽しみや快感の経験が内発的報酬となり、その追求の結果がスノーボードの継続やプロ活動へとつながっていると考えられる。普段感じる事のない特殊な経験は、いわゆる「フロー体験」を構成する要素と同じであるが故に、スノーボード競技はフロー体験を引き起こしやすい競技であるとわかる。

また、インタビュー調査の結果から、スノーボードの目的やスノーボード観から考えると、「競争」と「めまい」という2つのカテゴリーが当てはまる。しかし、3者に共通して他者の評価や社会への影響という目的も同時に含まれていることから、自己目的的活動と、それに対する外発的誘因が存在していると考えられる。つまり、スノーボード競技者にとってスノーボードとは、自己実現のための手段であり、その結果生じる達成や幸福感は、外発的な報酬を呼び起こすものであり、その外発的報酬は自己目的的活動へと還元されるといふサイクルになると考えられる。

まとめ

スノーボード競技は、エクストリームスポーツの中にも含まれ、エクストリームスポーツの最大な要素である「危険」を備えていることは明確である。危険度の増大は自己目的的活動に起因し、このことはエクストリームスポーツ全般にも当てはまるであろう。本研究の結論を一般化することはできないが、エクストリームスポーツ競技者の心理特性の一要因として理解することは可能であると考えられる。現在、エクストリームスポーツの構造を認識している人は少ないのが現状であるが、競技の目的や体験を明確に提示することにより、より魅力的なスポーツに発展すると思われる。エクストリームスポーツの研究は競技者や観戦者にも影響し、そのためにも心理特性の研究と量的調査の実施が必須であると思われる。